

平成26年度 まちづくり月間関連4行事受賞者等について

1. 第9回 まち交大賞
2. 第31回 まちづくり標語懸賞募集
3. 第9回 住まいのまちなみコンクール
4. 第16回 まちの活性化・都市デザイン競技

<問い合わせ先>

【まち交大賞】

まちづくり情報交流協議会 事務局（一財）都市みらい推進機構 TEL 03-5251-5625
<http://www.machikou-net.org/>

【まちづくり標語懸賞募集】

（公財）都市計画協会 TEL 03-3262-3491

【住まいのまちなみコンクール】

（一財）住宅生産振興財団内 住まいのまちなみコンクール事務局 TEL 03-5733-6733
<http://www.machinami.or.jp>

【まちの活性化・都市デザイン競技】

（公財）都市づくりパブリックデザインセンター TEL 03-6912-0799
<http://www.udc.or.jp/activities/design/>

第9回まち交大賞

1. まち交大賞について

まち交大賞は、都市再生整備計画に基づくまちづくりにおいて、優良な計画が策定され、また事業の実施、評価、改善において優れた取り組みを行った地区などを対象として表彰し、関係者の栄誉をたたえるとともに、受賞地区の事例を全国に幅広く紹介することで、地域の創意工夫を活かしたまちづくりを促進することを目的として実施するものです。

2. 主催・後援

主催：まちづくり情報交流協議会、(一財)都市みらい推進機構

後援：国土交通省

3. 実施方法

全国の市町村から応募のあった地区の中から、受賞地区を選定します。

【対象地区】

I. 完了地区

平成24年度までに都市再生整備計画事業が完了した地区

II. 計画地区

平成25年度において都市再生整備計画事業を実施中の地区

【審査委員会】平成26年3月25日(火)

委員長 高橋洋二 東京海洋大学名誉教授

【表彰】平成26年6月16日(月)「まちづくりと景観を考える全国大会」等

4. 表彰

I. 完了地区

①まち交大賞(国土交通大臣賞 1地区)

地域の創意工夫を活かしたまちづくりの取り組みがなされ、都市再生整備計画の策定、事業の実施、事業の評価等において優れた地区で、全国の都市・地域再生のモデルとして特に優秀な地区

②まちづくり達成大賞(まちづくり情報交流協議会会長賞 1地区)

まち交大賞地区に次いで、上記の観点から優秀な地区

③まちづくり効果賞(3地区)

まちづくり達成大賞に次いで、上記の観点から優秀な地区

II. 計画地区

①創意工夫大賞(都市みらい推進機構理事長賞 1地区)

都市再生整備計画において、テーマの設定、まちづくりのアイデア、計画策定のプロセスの3つの観点から特に優秀な地区

②まちづくりシナリオ賞(3地区)

創意工夫大賞に次いで、上記の観点から優秀な地区

第9回まち交大賞 受賞地区一覧

賞	地区名	受賞者	概要
まち交大賞 (国土交通大臣賞)	留辺 ^{るべしべ} 温根 ^{ちようおんね} 町温泉地区 湯 ^ゆ 温泉地区 ^{おんせん}	北海道 北見市	観光客がゆったりと温泉街で癒され、くつろげるような景観の整備と豊かな森林をはじめとした自然の観光資源と共生するような農村公園の緑化整備を行うことで、来る人、住む人が自然とふれあい、心温まる湯の里の実現を図る。
まちづくり達成大賞 (まちづくり情報交流 協議会会長賞)	和倉温泉地区	石川県 七尾市	地域住民、商店街、旅館が主体となって、住む人・訪れる人が楽しく行き交い、にぎわいある温泉街の再生に取り組み、街並みや景観の向上を図るため景観協定が生まれ、50年後100年後を見据えたまちづくりが実現。
創意工夫大賞 (都市みらい推進 機構理事長賞)	和合地区	山形県 朝日町	地域の衰退が進む中で、小学校の閉校が転機となり、自分たちの地域を何とかしたいという思いから、地域住民が主体となったまちづくり活動が始動。「和合地域づくり計画」の実現のため、地域と行政が一体となったし取り組みを実施。
まちづくり効果賞	柿田川周辺 東南部地区	静岡県 清水町	柿田川公園などの豊かな自然環境の保全と活用の機運の高まりのなか、堅実且つ費用対効果の高い事業を中心に、盛りだくさんの整備で、想定外の相乗効果や波及効果が生まれ、指標の目標値を大幅に超える達成度を実現。
	武生中心市街 地地区	福井県 越前市	約 1300 年近くも越前地方の中心市街地として栄えた歴史のあるまちで、地域固有の歴史や文化と人々の生活が密接に結びついた、賑わいと魅力のある「まちの顔」の形成を住民等との協働により実施。
	緑ヶ浜周辺 地区	福岡県 新宮町	まちの顔となる中心市街地をつくるにあたり、浄化センターの迷惑施設イメージを払拭させて「環境共生の核」とし、さらにJR新駅を誘致、整備することによって歩いて暮らせる「コンパクトシティの核」と位置づけた。
まちづくりシナリオ賞	下川市街地 地区	北海道 下川町	森林共生低炭素社会の構築を基盤とし、森林総合産業の創造を目標に、市街地中心部に低炭素まちづくり計画区域を定め、コンパクトなまちづくりを推進し、環境に係る取組と連携・連動した「まちの顔づくり・にぎわいづくり」を目指す。
	とおかまち地 区<第2期>	新潟県 十日町市	震災の影響や経済状況の低迷により廃業した工場や商業施設の跡地を活用し、公益施設や居住施設のまちなかへの集積を行う。跡地活用にあたっては、民間事業者を対象とした事業公募を行い民間の資本投資を促進する。
	棚尾地区	愛知県 碧南市	子どもからお年寄りまで、みんなが安心して生き生きと暮らせるまちを目指して、『災害に強く、多世代が安心・安全・快適に暮らせる生活の土台づくり』、『豊かな環境づくり』、『棚尾に訪れたいくなるまちの彩りづくり』を推進する。

第31回 まちづくり標語懸賞募集

1. まちづくり標語懸賞募集について

まちづくり標語懸賞募集は、まちの主人公である住民自身と自治体が共同しながら愛着と誇りのもてる「わがまち」をつくっていくための合言葉を募るもので、平成25年度は4,772通（一般の部 3,553通、児童・生徒の部 1,219通）の応募がありました。

なお、優秀作品については、第32回まちづくり月間のパンフレットに用いられます。

2. 第31回の募集について

国土交通省において、「人にやさしいづくり」をまちづくり月間テーマとし、まちづくりに関する様々な啓発活動を展開することとしております。

まちづくり標語においては、このテーマを受け、以下のとおり、募集を行いました。

我が国は、既に人口減少社会・超高齢社会となっており、まちづくりにおいても、高齢者が自立して暮らしていける環境、子育て世帯が安心して子供を産み、育てられる環境の整備が不可欠となっています。

特に、高齢者が、できるだけ長く心身ともに健やかな生活を送るためには、充実した公共交通やインフラを活用しながら、ゆっくりとまち歩きなどを楽しめるような、また地域のコミュニティ活動などに参加し、生きがいを感じながら安心して暮らせるような「人にやさしいまちづくり」が必要です。

このため、「人にやさしいまちづくり」についての合言葉を募集いたしました。

3. 主催等

主 催 : まちづくり月間全国的行事実行委員会
後 援 : 国土交通省

4. スケジュール

募 集 : 平成25年8月1日（木）～平成25年12月31日（火）
選 考 : 平成26年3月7日（金）
表 彰 : 平成26年6月16日（月）「すまい・るホール」（住宅金融支援機構内）

5. 審査委員

委員長	幸田	シャーミン	（ジャーナリスト）
委員	藤本	昌也	（建築家）
	柳島	康治	（コピーライター）
	樺島	徹	（国土交通大臣官房審議官（都市局担当））
	広畑	義久	（国土交通大臣官房審議官（住宅局担当））
	杉山	雅英	（（公財）都市計画協会 業務執行理事）

第31回まちづくり標語懸賞募集 審査結果

一般の部

賞	作 品	作者氏名	住所
特 選	人と人 傘にも杖にもなれる街	成田さなえ	青森県大鰐町
準特選	おばあちゃん それ持つよ 未来の私をお手伝い 人から繋がるまちづくり	窪田 真貴	愛媛県松山市
入 選	世代超え 心行き交う 僕のまち	小田中準一	千葉県市川市
入 選	歩くたび ココロのカドが 取れるまち	山野 大輔	大阪府堺市
入 選	差し延べる 手と手がやさしいまちづくり	井上みどり	岡山県倉敷市

生徒・児童の部

賞	作 品	作者氏名	住所
特 選	心から ポカポカするまち つくろうよ	福島 哲郎	東京都江東区
準特選	思いやり 増えていくたび 良い町に	細川 沙希	徳島県吉野川市
入 選	ぼくの町 見えない所で あたたかい	佐々木荘春	東京都江東区
入 選	優しさを つめこんでたら あふれだす そんな町になったらいいな	白土 寛子	東京都江東区
入 選	広げよう 町いっぱい やさしい手 町をささえる やさしい目	横溝麻志穂	宮城県仙台市

第9回住まいのまちなみコンクール審査報告

1. 趣旨

身近な住環境は地域の方々によって維持管理され、安全、清掃、緑化、まちなみなどが保たれています。このようなコミュニティ活動が活性化していることは喜ばしいことですが、一方では敷地の細分化による密集化の進行、緑の減少など環境の悪化も見受けられます。今後、ますます住民や住民組織による維持管理活動の進展が望まれています。このような状況を踏まえ、維持管理活動に実績を挙げている住民組織をまちづくりのモデルとして表彰し、支援するものです。

2. 主催・後援

[主 催]

まちづくり月間全国の行事实行委員会、(一財)住宅生産振興財団、
(一社)住まい・まちづくり担い手支援機構

[後 援]

国土交通省、独立行政法人住宅金融支援機構、独立行政法人都市再生機構、(一社)住宅生産団体連合会、(公社)日本建築士会連合会、(一社)日本建築士事務所協会連合会、(一財)ハウジングアンドコミュニティ財団

3. 事業実施経緯

[応募期間]

平成25年5月1日(水)～平成25年8月31日(土)

[審 査]

審査委員会(委員長 藤本昌也氏(建築家/公益社団法人日本建築士会連合会 名誉会長))において審査

第1回審査委員会 平成25年10月2日(木)

第2回審査委員会 平成25年12月19日(金)

[審査委員](五十音順/敬称略)

委員長 藤本昌也(建築家/公益社団法人日本建築士会連合会 名誉会長)

委 員 上山良子(ランドスケープアーキテクト/長岡造形大学 名誉教授・学長)

大月敏雄(東京大学 准教授)

橋本公博(国土交通省大臣官房審議官)

望月明彦(国土交通省大臣官房技術審議官)

森まゆみ(作家・編集者)

森野美德(都市ジャーナリスト)

[入選発表]

平成26年1月

[表 彰]

平成26年6月16日(月)

「まちづくりと景観を考える全国大会」において国土交通大臣賞表彰

4. 審査結果

国土交通大臣賞・・・1団体

- 木綿街道振興会（木綿街道地区／島根県出雲市）

住まいのまちなみ賞・・・4団体

- 旭ヶ丘自治会（旭ヶ丘地区／茨城県筑西市）
- いわき市中央台鹿島三区自治会（いわき市中央台鹿島三区自治会地区／福島県いわき市）
- 七日町通りまちなみ協議会（七日町通り地区／福島県会津若松市）
- フィオーレ喜連川管理組合（フィオーレ喜連川地区／栃木県さくら市）

国土交通大臣賞

木綿街道振興会

（木綿街道地区／島根県出雲市）

木綿街道は、木綿の集散地として繁栄した地域です。かつて舟運が盛んであり、通りと運河をつなぐ小路・かけ出し（船着場）とともに、「切妻妻入り塗り壁造り」の古い商家跡が建ち並び、歴史的景観を形成しています。地域特性を冷静に理解し歴史に誇りを持ちながら、地域住民みんなでまちづくりに取り組んでいる姿勢が評価されました。公的助成を受けながら3年間で17戸のファサード（建築物正面）の改修をしたほか、道路沿いにベンチをしつらえたり、季節の花々を植えるなど、修景にも日常的に細やかな心配りが見られます。継続的な取り組みにより生活の質を上げ、歴史や伝統を生かした修復・再生によって、次世代にも住み継がれる魅力に富んでいます。



第16回 まちの活性化・都市デザイン競技

1. 主旨

これからのまちづくりにおいては、そこに生活し活動していることの豊かさが実感でき、誇りのもてる優れた景観を備えた環境整備が重要です。現代の活動にふさわしい新たな都市景観の形成には、まちの歴史や環境に配慮しながら、その都市固有の品格を備え洗練された表現と演出が求められ、そしてその魅力が都市に活力を呼び戻し、新たな賑わいを伴って、まち全体が活性化していくことが期待されます。こうしたまちづくりの基本的課題を踏まえ、本「まちの活性化・都市デザイン競技」は、地域にふさわしい整備構想とまちのデザインについての提案を広く一般から募り、まちづくりに対する国民の関心を高めるとともに、まちづくりの企画・デザイン技術の向上、活力ある美しい景観を備えたまちづくりの実現に寄与することを目的に平成10年度より毎年実施しているものです。

2. 競技対象地区

競技の対象地区は、全国公募に応募された候補地の中から、福井県福井市の「福井城址周辺地区」（約34ha）を選定しました。

3. 競技課題

対象地区について、地区の賑わいを高め、地域全体を活性化するための拠点整備、回遊性の向上、良好な景観形成等を図るための様々なアイデアと都市デザインについて、その整備手法を含め募集しました。

4. 応募作品数

競技へのエントリーが49グループあり、最終的に提出された応募作品数は31作品でした。

5. 主催・後援

- (1) 主 催 : まちづくり月間全国的行事実行委員会
(公財)都市づくりパブリックデザインセンター
- (2) 後 援 : 国土交通省、福井市

6. 競技実施スケジュール

- (1) 応募登録期間 : 平成25年 9月9日(月) ~ 10月 7日(月)
- (2) 作品提出期間 : 平成26年 1月10日(月) ~ 1月16日(木)
- (3) 審 査 : 平成26年 1月31日(金)
- (4) 表 彰 : 平成26年 6月16日(月)
「すまい・る」ホール(住宅金融支援機構内)

7. 審査委員

- 委員長：西村 幸夫（東京大学教授）
- 委員：石川 幹子（中央大学教授）
- 岸井 隆幸（日本大学教授）
- 高見 公雄（法政大学教授）
- 藤本 昌也（建築家）
- 廣瀬 隆正（国土交通省都市局市街地整備課長）
- 東村 新一（福井市長）

（順不同、敬称略、平成26年5月現在）

8. 審査結果

審査の結果、次の通り各賞が選定されました。

- 国土交通大臣賞（1点）・・・大成建設株式会社（石田 武ほか6名）
- まちづくり月間全国的行事実行委員会会長賞（1点）
 - ・・・東京理科大学工学部建築学科（伊藤研究室）（伊藤香織ほか11名）
- （公財）都市づくりパブリックデザインセンター理事長賞（1点）
 - ・・・清水建設株式会社プロポーザル本部都市開発計画室（宮前和也ほか1名）
- 奨励賞（2点）・・・東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻（有田昌弘ほか4名）
 - ・・・法政大学デザイン工学部都市環境デザイン工学科（山科盛人ほか5名）
- 福井市長特別賞（1点）・・・戸田建設(株)建築設計統括部（平田拓也ほか5名）

<国土交通大臣賞 受賞作品>

「福井まちづくり啓発録」-育むまち うららのまち-

石田武、川崎泰之、友景寿志、平賀順也、黒江由美、井村六美、阿部祐一

（大成建設株式会社）

The image shows a comprehensive architectural presentation board for the 'Fukui City Planning and Development Record' (福井まちづくり啓発録). The board is divided into several sections:

- Top Left:** A large aerial rendering of the proposed urban development, showing a mix of residential, commercial, and green spaces.
- Top Right:** Three smaller images showing different views of the development, including a street-level view and a view of a public space.
- Middle Left:** A detailed site plan with various colored zones and annotations. It includes a legend and several text boxes explaining the planning rationale.
- Middle Right:** A large, detailed site plan showing the layout of buildings, roads, and public facilities. It includes a legend and several text boxes explaining the planning rationale.
- Bottom Left:** A section titled 'まちづくりの理念 (構想の考え方)' (Concept of City Planning) containing several key points:
 - 一 復原 本丸を復原し市民に親しまれる場所をつくる (Restoration: Create a place where citizens can enjoy the restored main castle.)
 - 一 再編 県庁、業務機能を再編して都市機能の集積を維持していく (Reorganization: Maintain and accumulate urban functions by reorganizing prefectural offices and business functions.)
 - 一 眺望 福井駅と天守閣を結ぶ都市軸を形成する (View: Form a city axis connecting Fukui Station and the Castle Tower.)
 - 一 目途 中庭空間を快適なオープンスペースとして再現する (Forecast: Recreate courtyard spaces as comfortable open spaces.)
 - 一 郷土愛 まちの再編と合わせてまちづくりの担い手を育成する (Local Love: Cultivate city planners along with the reorganization of the city.)
- Bottom Right:** A section titled '建物の形態比較検討' (Building Form Comparison) containing a table with columns for '建築計画' (Architectural Plan), '既存建物' (Existing Building), and '再開発' (Redevelopment). The table compares various building forms and their suitability for the site.